

5 Yuito さん（小学3年生）



作品名「花火」

作者の言葉

家族みんなで協力して、楽しかった花火の絵を描きました。細い線を描くのが難しかったです。

学芸員からのコメント

とてもカラフルな花火の情景です。

それぞれの花火の色を、赤、青、緑などにはっきりと分け、さらにその中で少しずつ色を変えながら描いたことで、華やかさが際立っています。また背景の黒に鮮やかな色彩が映えていますね。

とても鮮やかな色づかいで、楽しい雰囲気や、花火の音までも伝わってくるようです。



木村武山「阿房劫火」

美術館の所蔵作品からも、黒い煙の中、真っ赤な炎の色が鮮やかな作品を紹介します。

木村武山の「阿房劫火」は、巨大な宮殿の火事の様子を描いています。古代中国の始皇帝が建てた「阿房宮」は、敵国の将軍項羽によって焼かれ、その炎は3ヶ月間も燃え続けたと伝えられています。武山は敢えて人を描かずに、巨大な炎と煙、そして建物だけを描いて作品にしました。

よく見ると、炎や煙を大きく描くだけでなく、建物などはとても細かく描かれているのがわかります。

Yuito さんが細い線をいっぱい描いたように、武山も大きな画面のなかで、ところどころとても細い筆で描いています。

実は武山の《阿房劫火》は縦141センチ横241センチというとても大きな作品です。